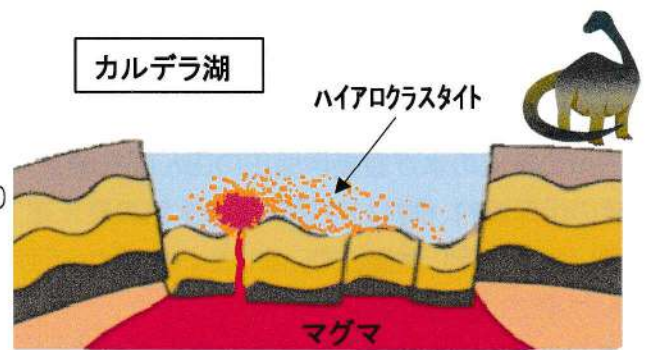


竜山ウオークピックス

1、竜山石の生まれ(流紋岩質凝灰岩)

約1億年も前の白亜紀、いたるところ噴火活動がありカルデラ湖の水中で粉々になった溶岩のかけら(ハイアロクラスタイト)が湖底で固まり、その後隆起して地上に出てきた岩山。



★元々は青い岩 ◆青い岩が風化して黄色い岩に
青い岩が熱せられて赤い岩に

●湖底で静かに育った組織が均一な岩

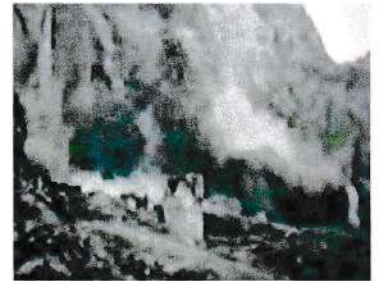
2、竜山石の採石事業

古くは石棺、礎石として、中世では五輪塔などの石造物を主に生産してきた。

1) 採石事業

天保3年(1646) 生石、島、塩市の村が年貢米が納められない年が続き姫路藩に採石することを願い出て許可をもらい本格的に採石を開始
評判の良い石に大阪の間屋がさらに販路を広げた。

(当時の大阪の間屋;井筒屋、堺屋、江戸屋、名田屋)
姫路藩の専売制になり ますます採石事業が進んだ。



◆爆破の瞬間

2) 採石の技術

鉄の矢やタガネ、ハンマーとかつては人力で岩を砕きました。
火薬で爆破し採石したのは大正時代になってからです。
ピークの昭和37年には約40万トン(浮石約1000個分)が採石、
また、皇居吹上御苑に2000枚の敷石を納めました。



◆皇居に納めた敷石



◆堰き止め石

3) 採石の輸送

重い石をたくさん運ぶのはもっぱら船で運びました。
切りだされた石は団平(だんべい)船で港まで運ばれました。
川を堰止め水位を上げて船積し 満潮時に港に運びました。
昭和36年ごろまでは川幅は今の半分以下だったといわれています。(堰き止めで使用された石の柱が残っています)



◆だんべい船

【ちょっと寄り道】

- 1) 家紋石はもとは右図の▲4のところにあり昭和43年頃に採石作業で落下。現在は●3の生石神社の下の鳥居の両側にあります。
- 2) 島の山の神はもともとは▲7のところにありました。
H16年に●6の現在のところに移されました。
- 3) 監視所が●8にあって役人が丁場を見張っていたようです。
- 4) 運河が今の研修センターのあたりにあり石を運び出していました。
明治28年の頃の地図では大きく蛇行していた法華山谷川でしたが土手が改修され運河になりました。
- 5) 総合運動公園あたりは一面の田んぼで、大雨の時でも田んぼダムとして雨水を蓄えていました
- 6) 「間の川」は加古川大堰から取水された水が神吉、平津、神爪島そして塩市の田んぼを潤した後、ここから最後に谷川から海へと流れています。また、金時井用水の取水の出発点でもあります。



3、金時井用水

金時宗五郎が始め、中村五郎右衛門が引き継いで完成した灌漑用水路。加古川の本流の水が直接伊保庄の田んぼを潤す大事業でした。

1) 昔の伊保崎村、梅井村は伊保庄の水路の最末端で たびたび水田の養い水が不足し難儀していました。(魚橋から阿弥陀、曾根を回って水が来ていました)

2) 天保のはじめ金時宗五郎が私財で土手を築きトンネルを掘って「間の川」の水を導き 何とか10町歩ほどの灌漑が出来ました。

3) 天保3年跡を継いだ中村五郎右衛門が代官所の許可を得て川の東に井堰(長さ8間、幅2間、高さ1間)を作り谷川の川底に埋桶(うずめひ)を作り、また伊保町までの全長344間(約620m)の灌漑用水路を完成させ 水の心配なく稲作ができるようになりました。

4) 井堰を造ったためか塩市側の水田が幾度も水に浸かり 米の収穫が少なくなったため 毎年米13石を溝賦米として塩市に収めました。



◆記念碑

◆昔の用水路



◆明姫幹線の北側の石積

◆埋桶

H30年に約9m下に深く造られました。



4、山頂の古墳

1) 6号墳(竜山山頂・でべそ山) 山頂92m

地形調査により古墳と推定されている。円墳(直径26m) 埋葬施設不明、魚崎構により改変したと思われる。

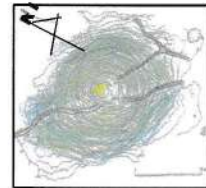
地元の人によると 北側の血の池のところの土を運び盛り上げたとの伝承があります。

2) 5号墳(山頂から北に下り広場に出たところ)

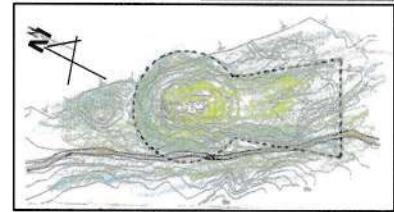
昭和51年の発掘調査により 前方後円墳(全長29m) 竪穴式石室で鏡、鉄器(剣、刀、鉄斧)、ガラス玉が出土しました。

このあたりの採石場を統括していた豪族の墓ではといわれています。

◆6号墳



◆5号墳



5、加茂神社

下鴨神社から勧請し魚崎村(今の中部、別名加茂条) 建立。1680年の大火で焼失し、現在のところに移された。近年 神社の蔵から曾我蕭白の描いた人馬の絵馬が発見されました。



◆蒼白の絵馬



◆明姫幹線側からとられた昔の加茂神社、観涛處

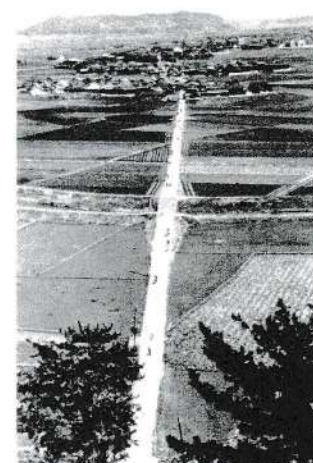
【昔の風景写真あれこれ】



◆塩市の川東側の井堰(金時井用水)



◆伊保の村々、荒井の塩田など



一面の田んぼ



◆生石神社(練り場から見て)

◆神社から宝殿へ的一本道

発行者:石の宝殿研究会 090-6065-4087
発行日:令和2年11月30日

令和2年度高砂市未来戦略推進活動支援事業